

安場 靖

「縄張り」



西大寺会陽・裸祭りも間近となった。これが過ぎると岡山の里山にもいよいよ春が来る。

私は、福渡（建部）に住んでいるが、時々、自宅からJR福渡駅まで、旭川のほとりを歩きながら目にするものがある。それは、通年棲みついているこ白鳥のツガイである。

普段は、ひと組のツガイが川下方向1kmほどをテリトリーにして餌を啄ばんでいる。時折、通りすがりの人からパンくずをもらっているさまは、白鳥夫婦の人懐っこさのなかに“平和”なひとときを感じさせてくれる。

ところが凍てつくようなある日の早朝、その穏やかな白鳥のツガイ

が、川上に向かって羽を逆立てているのではないか。見るとその前方に、もう一組のこ白鳥のツガイが何食わぬ“顔”をして、羽を休めている。しばらくして、毛羽立たたツガイが川上に向かって突進、示威行動に出た。すると攻撃された白鳥のツガイは、何と川上のはるか彼方に飛び去っていったのである。

数日後、またしても同じ場面に遭遇した。よく見ると今度は、川上の新参者のツガイが川下のテリトリーに侵入している。この前より10数メートルも川下である。しかも、かなり、接近している（その間10メートルくらいか）、縄張り行動にもある程度の“妥協”が成立するのか、共存共栄をもとめているようにも見え、「縄張り行動」に何か奥深いものを感じた。

ものの本によれば、脊椎動物や節足動物にはさまざまな縄張りを持つものがあるとされている。そろそろ“チッチ”から“ホーッホケキョッ”に声変わりするウグイスの雄の役目もさ

ることながら、縄張り行動が摂食、繁殖を保障するものならば、この行動は生態系の持続に欠かせない。アユの“友釣り”に興ずる度に、動物の縄張り行動の大切さに思いを馳せる人間様でありたいと思う。

ところで、人間社会において、「縄張り意識」とか「縄張り根性」といった言葉をしばしば耳にすることがある。グループや組織が自己の領域の存在をめぐるぶつかり合う場合が多い。この場合、目先の利権を上位におく価値観が見え隠れする。「縄張り行動（意識）」が生態系の持続発展ならぬ、国民不在の政体形（せいいたいけい）に陥らぬことを願う昨今である。

安場 靖氏

1946年7月、鳥取市出身。北海道、愛媛、岡山の生協ひとすじ。趣味；菜園、小動物飼育
岡山県生活協同組合連合会会長理事。
(財)おかやま環境ネットワーク理事。

